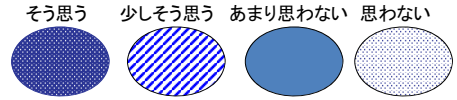


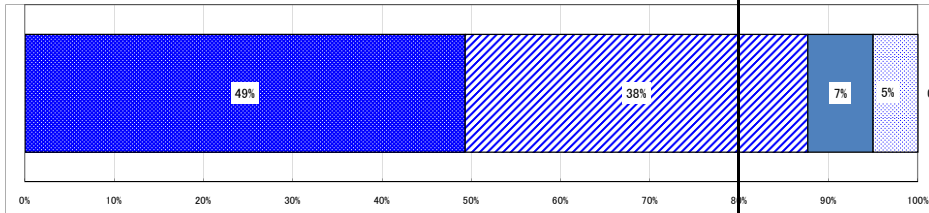
<実施日> 平成25年(2013年)10月1日～10月8日
 <対象> 横須賀市立豊島小学校児童(1年～6年)
 <回収状況>

	児童数	回収数	回収率
1年	50	43	86%
2年	40	36	90%
3年	36	31	86%
4年	39	35	90%
5年	33	33	100%
6年	45	41	91%
全体	243	219	90%



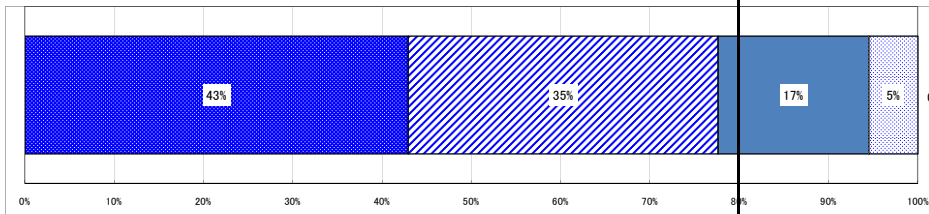
1 じぶんからあいさつができる

80%ライン



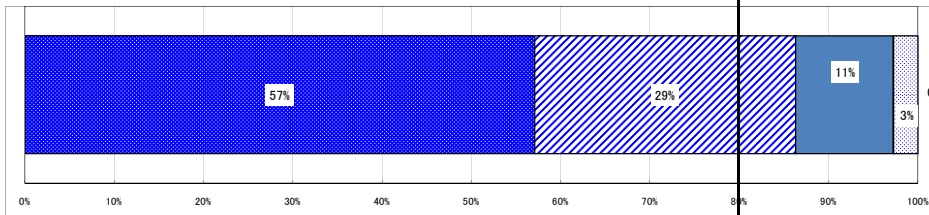
「そう思う」「少しそう思う」がこの3年間、徐々に落ちてきています。友だち同士ではあいさつをしていますが、大人とのあいさつは希薄です。あいさつ指導をしていくだけではなく、大人も返事をするなどして「してよかった」と思わせる必要があると感じます。「自分からいろいろな人にあいさつする児童」の育成を目指していきます。

2 早寝・早起きを心がけ、朝食をとるようにしている



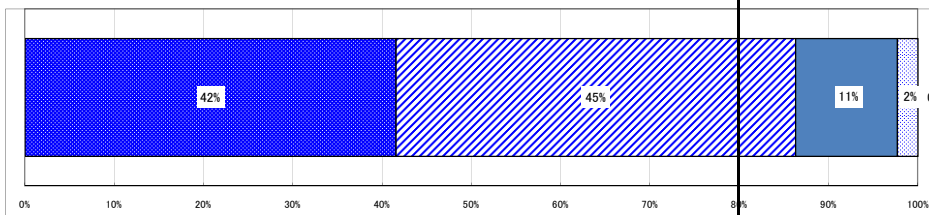
昨年度と同様の評価です。ご家庭の努力の成果と感謝いたします。睡眠時間の長短、朝食の有無が学習成果に如実に反映されます。健康指導と合わせて睡眠や朝食の大切さを伝えていく必要があります。引き続きご家庭での指導をお願いいたします。

3 授業のはじまり、そうじのはじまりなどに遅れないようにしている



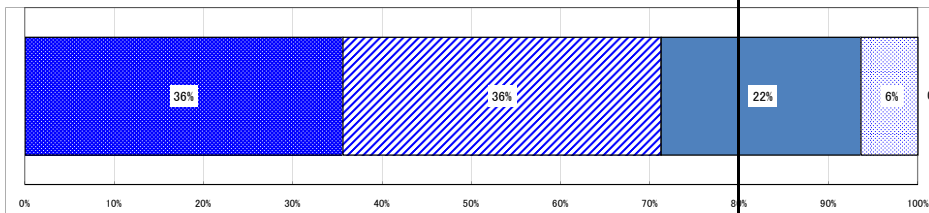
昨年度より10ポイントほど下がりました。達成できていない14%の子どもは、学級においてかなりの人数です。これは種々の活動に大きな影響を及ぼす人数です。授業内容の改善を図るとともに、待っている友だちのことを考えさせるなど、時間を守る指導を継続的にしていきたいと思っています。

4 いつもきまりを守り、安全に気をつけて行動している



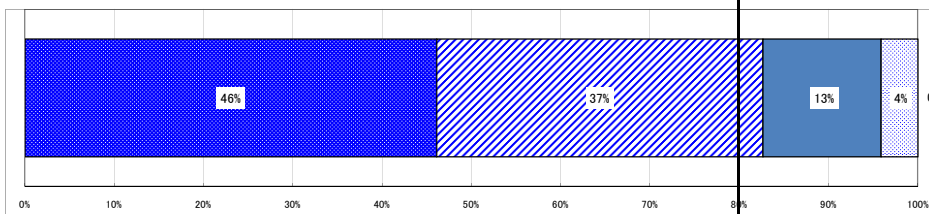
昨年度よりも4ポイント上昇しました。児童一人一人が安全に生活しようと心がけています。しかし危険に遭遇する可能性はどこにもあるものです。危険内容の認識・児童への指導を行い、安全な学校づくりをしていきたいと思っています。

5 自分で考えたことを、先生に話したり友達同士で話し合ったりノートなどに書いたりしている



発表中心だった昨年度の設問を、児童の思考の表現に合わせた設問に変えたことによりプラス評価が70%を超えました。しかし学年によって様子が違います。発表の機会をペア学習やグループ学習でも行っていますが、まだ子どもが「自分の意見を伝えている」と思っていないようです。人の発表を待っている様子も気になります。子どもの意識づけをしながら言語活動を充実させた学習を構築していきます。

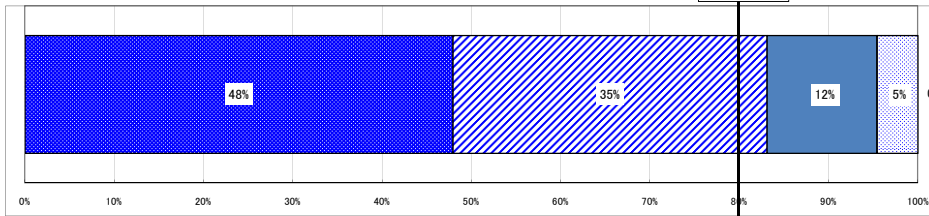
6 先生や友だちの話をよく聞いている



授業でも人間関係でも、話を聞くことが第一歩です。低学年が90%を超え話を聞く姿勢が育っていることがわかります。全体としても80%を超え、よく話を聞く豊島っ子です。学年が上がってもこの姿勢は大切であることを伝え、誰の話でも聴くことができますように指導していきたい

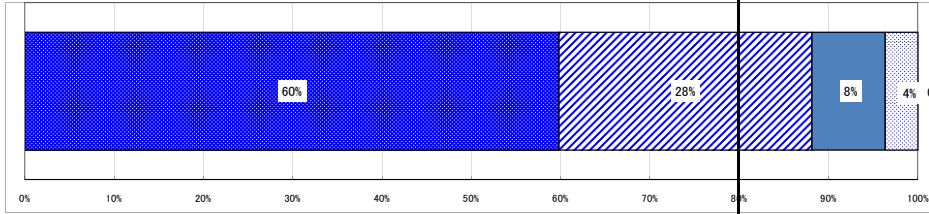
7 授業で勉強していることがよくわかる

80%ライン



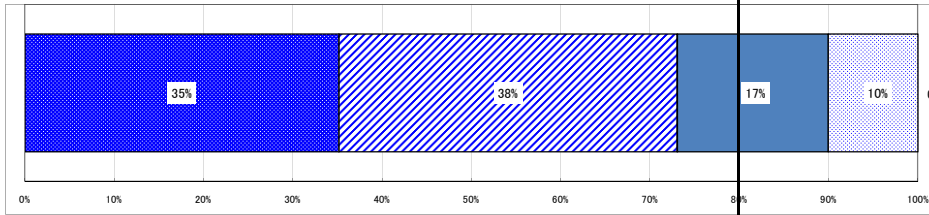
全体としてはプラス評価が80%を超えています。高学年は70%ほどです。学習内容が難しくなっていることが一つの原因かもしれませんが、指導者側にも学習への工夫が必要です。わからないことを「わからない」と言える環境づくり・柔軟に対応できる教師の資質などを視点に、教材研究や指導法の工夫をしていきたいと考えています。

8 先生は、学習のわからないところについてわかるように教えてくれる



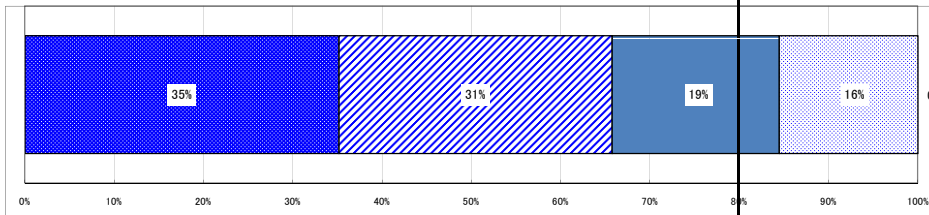
昨年度と同様、どの学年も高評価ですが、これは100%になるよう指導者が目指すものであると考えます。低学年の90%を超えた評価を6年間維持できるよう、校内研修・校外研修や、教員同士の情報交換を密にして、研鑽を積んでいきたいと思えます。

9 自分の物をなくさない工夫（記名・整理整頓など）をしている



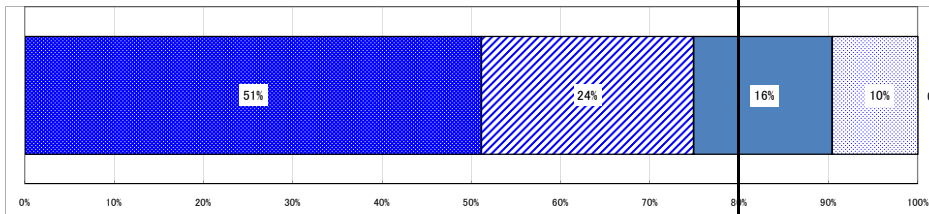
昨年度の「そう思う」64%からの大幅なアップとなりました。まだ持ち物に記名しない・恥ずかしさから「自分の物」と言えない実態はありますが、まずは物への執着心が大切です。物への感謝・もらった人への感謝など、ご家庭でもお話しいただきたいと思えます。なくさない・もどってくる工夫を学校でも家でも話していきたいです。

10 家に帰って、自分から勉強に取り組むことができる



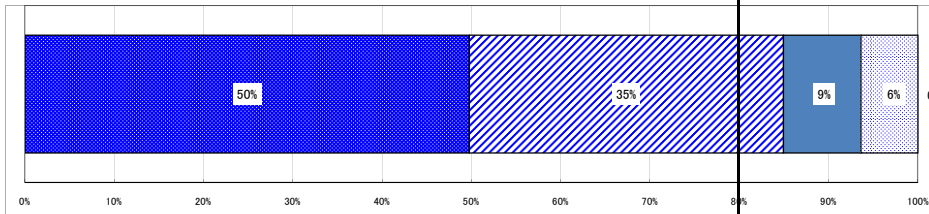
プラス評価が6ポイント上がりましたが、「そう思う」が少ないことが気になります。「自学自習」の考えは、学ぶ姿勢づくりに大切です。その日の困り・疑問にその日のうちに取り組むという、理想的な学習サイクルを、学年に応じて育てていきたいと考えています。ご家庭のご協力もとても重要だと思います。

11 家で、学校のことをよく話す



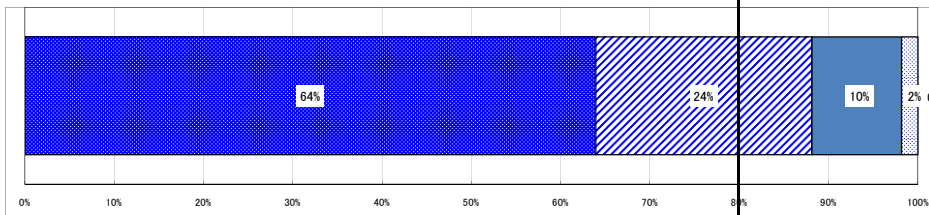
全体ではよく話す児童が多く、安心できます。ご家庭のご協力にも感謝いたします。気になるのは学年が上がると「そう思わない」児童が多くなることです。家で話す相手がいないのか、話さなくなってきたのかを個人面談などを通しておうちの方と共通理解を図りたいと思えます。

12 相手が傷つくようなことを、言ったりしたりしないように気をつけている



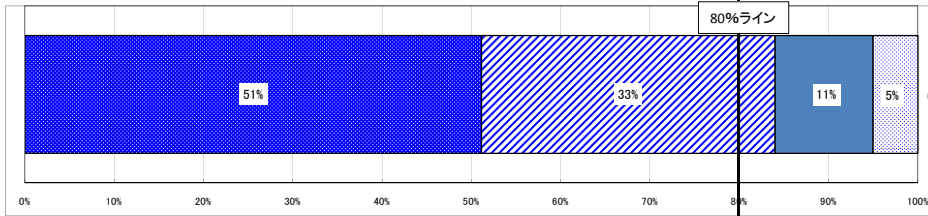
傷つく言葉を発する者は、「相手が傷つく」と思っていないことが問題だと思えます。冗談やちょっとしたつづやきで済まされていたことが、成長過程や環境で受け手の受容できる範囲が変わり、傷ついていることがあります。日々学級や学年で考えていき、共に成長していきましょう指導して参ります。

13 係活動や当番をわすれずにやっている



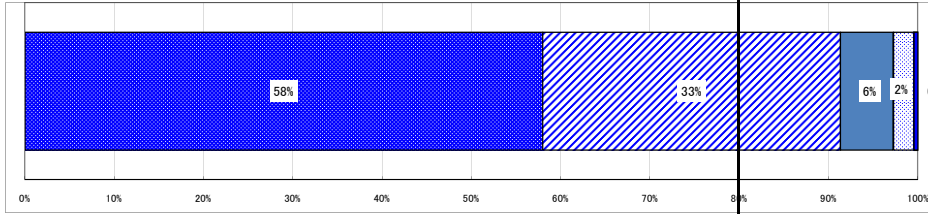
低学年は100%の高評価です。進んでやるのが人のためになっているのかを、児童に考えさせる必要があると思えます。また、感謝の気持ちを伝え合う時間も大切です。学年が上がると「人任せ」の傾向はあります。学年の育ちを背景に保護者に伝え、奉仕的な活動を進んで行う児童を育てていきたいです。

14 整理整頓をしたりそうじをしたり，学校をきれいにしようとしている



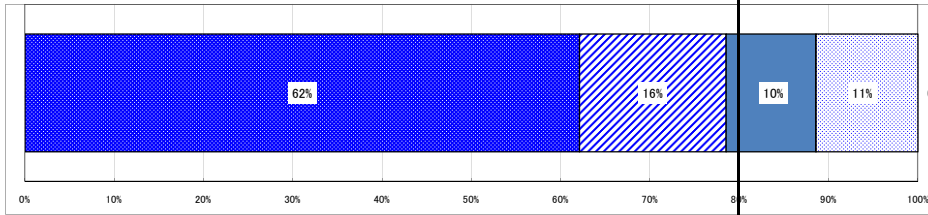
子どもたちはかなりがんばって清掃をしています。その成果が前回同様の高評価につながったと思います。同じ時間を同じ目的で清掃しているといった一体感をもたせ、全児童が「清潔な学校づくり」に向けて取り組むようはたらかけたいと思います。児童数減も鑑み、大人の手できれいにしていくことも模索していきたいです。

15 学校生活の中で，友だちと協力しあっている



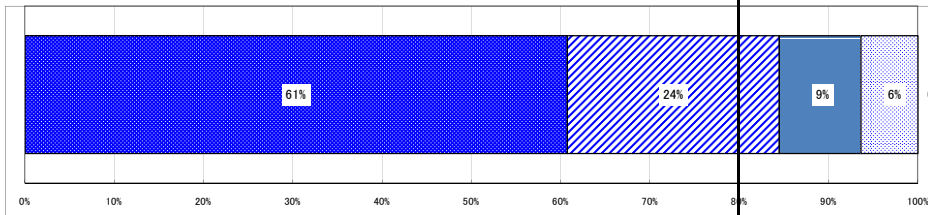
学級活動だけではなく、委員会・クラブ・たてわりを通して子どもたちが協力している姿をよく見ます。授業も協力しないと進まないものもあります。力を合わせたり相談したりしている姿は、微笑ましいものがあります。90%超はすごいと思います。100%を目指して、その気持ちよさを学年学級だけではなく、異学年交流の中で味わっていききたいと思っています。

16 たてわり活動は，楽しい



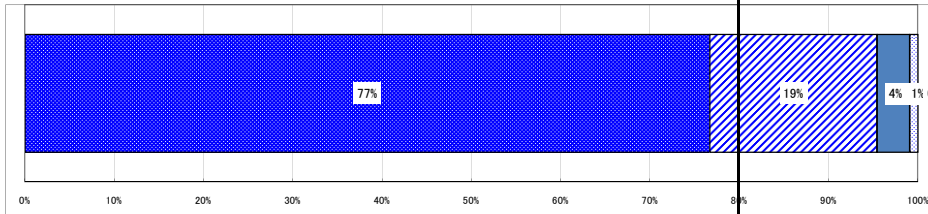
低学年が楽しんでいる評価です。これは運営側の高学年ががんばった成果だと思います。高学年の評価も上昇し、運営を楽しむ姿勢が育ってきています。たてわり活動は、異学年とのふれあいを通して児童の自発的な心や思いやりを育てることに意味があり、そこに価値をもつことができる児童に育てていきたいと思っています。学校として、継続的・発展的な活動の工夫をしていきたいと思っています。

17 困った時に相談できる大人や友だちが学校の中にいる



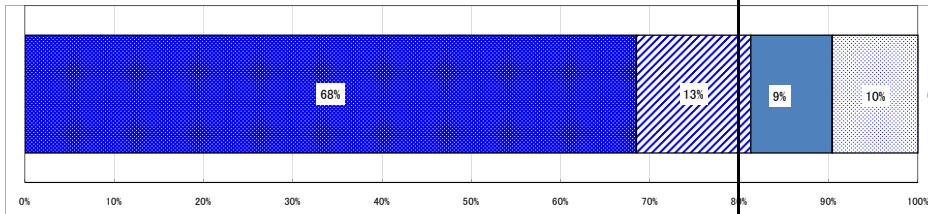
昨年度「思わない」児童が12人、今年度は14人と増えました。少数とはいえ心配です。心を許せる友だちの有無、相談できる教職員の有無、担任との距離感など、ふれあい相談員・保護者と連携をとり「自分だけ」にならないようにしていきたいと思っています。

18 クラスの先生以外にも，声をかけられたりあいさつをされたりしたことがある



96%の児童が声をかけられている実態は評価できます。多くの目で見守ることが、様々な課題の早期発見や解決につながることを意識して、100%に近づけ暖かなまなざしのある学校づくりをしていきたいと思っています。

19 学校は楽しい



学校に来ることが「苦痛」とならなければよいのですが、10%の児童がそう感じているかもしれません。前年度よりも5ポイント上がっていて心配です。この実態を全職員で確認し、児童一人一人に合った指導法を考えていく必要があります。家庭と連携しながら全職員で情報を共有し、児童指導に当たっていきたくと考えています。